

平成19年3月分 検査結果の概要

簡略な説明のため、若干正確性を欠く面もありますが、正確には従来どおり個表をご覧ください。

放流水等水質調査結果（（1）表）

最終排水口での測定結果。

代表項目	項目の説明	処理目標値	測定値	コメント
塩化物イオン (mg/l)	活着期 500～700 以上、分けつ期 700～1000 以上になると、稲作に障害があるといわれている。	500 (4～8月限定)	390～480	問題のない値でした。
BOD (mg/l)	数値が高いほど有機物などの汚染が進んでいる。	20	0.5 未満～0.8	問題のない値でした。
SS (mg/l)	数値が高いほど、濁りが多い。	20	2～4	問題のない値でした
有害物質等 (mg/l)	有害金属のカドミウム、シアン、鉛、六価クロム、砒素、総水銀について調査しました。	細目協定に掲げるそれぞれの値	定量下限値未満の異常のない数値。	問題のない値でした。

地下水（シート下）と、2本の井戸水の毎日のモニタリング自動測定結果

代表項目	項目の説明	環境基準値	測定値	コメント
pH	7.0 が中性、それより高いとアルカリ性、低いと酸性を示す。		6.0～7.3	従来と変わりなく、問題のない値でした
EC (mS/cm)	溶けているイオンの種類により差異はあるが、イオンの濃度が高いたかいほど数値が大きい。		0.5～1.3	従来と変わりなく、問題のない値でした

放流水の年間推移（（2）表）

放流水の1年間の調査結果を項目毎にグラフ化しました。なお調査結果が定量下限値のみであった項目は省略してあります。

- ・ 浮遊物質量（SS）以外の項目は基準内で推移しており問題ありませんでした。またSSの超過についても降水の影響によるものでくに問題はありませんでした。

公共用水域水質調査結果（（3）表）

エコパークの下流、古志茂橋（中田川）採水したものです。また古志茂橋の上流に落ちている生活排水の影響を調べる為、その排水口とそのすぐ下流からも採水しました。

代表項目	項目の説明	環境基準値	測定値	コメント
SS (mg/l)	数値が高いほど、濁りが多い。	50	5	問題のない値でした。

塩化物イオン (mg/l)	活着期 500～700 以上、 分けつ期 700～1000 以上 になると、稲作に障害があ るといわれている。		873～879 生活排水 27	非利水期で、問題のない値でした。 また生活排水は 27 と低い値でし た。
全窒素 (mg/l)	水中の有機物が分解され る過程でいろいろな形態 の窒素化合物が生成され るが、その窒素の総量。		5.2～5.5 生活排水 0.59	問題のない値でした。生活排水は 0.59 と問題のない値でした。環境基準はあ りません。 なお同時に測定した硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素も環境基準の範囲内で 問題のない値でした。

今回の測定では生活排水に汚れは見られませんでした。

排ガス調査結果（（４）表）

廃棄物を焼却することで発生する排ガス中の物質を測定しました。」

項 目	項目の説明	処理目標値	測定値	コメント
ばいじん (g/m3N)	排ガスに含まれる固体の粒子 状物質	0.05	0.04 未満	問題ない値でした。
硫黄酸化物 (k 値)	排ガスに含まれる硫黄の酸化物の 総称で、通称 SOx (ソックス)。	17.5	0.01 未満	問題ない値でした。
塩化水素 (mg/m3N)	塩化物や塩素を含む物質の燃 焼により発生する酸性のガス。	200	230 未満 15 未満	硝酸銀滴定法とチオシアン酸水銀 () 吸光光度法とで並行測定し、 問題のない値でした。
窒素酸化物 (ppm)	排ガスに含まれる窒素の酸化物の 総称で、通称 NOx (ノックス)。	200	8	問題ない値でした。

埋立量年次推移（測量実績値）

	単年度(m3)	累計(m3)	残容量(m3)
平成 11 年度	76,464	76,464	1,407,536
平成 12 年度	117,876	194,340	1,289,660
平成 13 年度	154,102	348,442	1,135,558
平成 14 年度	84,916	433,358	1,050,642
平成 15 年度	106,886	540,244	943,756
平成 16 年度	97,026	637,270	846,730
平成 17 年度	92,195	729,465	754,535
平成 18 年度	92,244	821,709	662,291